

令和4年度第1回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開 催 日 時：令和4年10月12日（水）14：00～16：00
場 所：本庁東庁舎 1階 大ホール
出 席 者：横山 順一、掛水 誠幸、百田 幸生、田中 勇一、神田 修、
竹吉 功、船村 覺、三浦 ひろみ、島岡 華奈子、岡村 健志、
山本 由美、野村 宏、浅野 尊子
欠 席 者：田邊 誠進、佐々木 将司、川添 節子

■会議次第

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 自己紹介
4. 会長並びに副会長の選任
5. 説明事項
 - ①審議会の任務について
 - ②総合振興計画について
 - ③行政評価について
 - ④行政評価条例について
 - ⑤審議会の情報公開について
 - ⑥年間スケジュール（案）について
6. 令和4年度行政評価について
7. その他
8. 閉会

■会議資料

1. 会議次第
2. 委員名簿
3. 資料①「四万十町総合振興計画審議会条例」
資料②「総合振興計画について」
資料③「行政評価について」
資料④「行政評価条例」
資料⑤「審議会等の会議の公開に関する指針」
資料⑥「年間スケジュール（案）」
資料⑦「令和4年度行政評価について」
冊子「第2次四万十町総合振興計画 一改訂版一」
冊子「まちづくりのルールブック」

（事務局）

ただ今より、総合振興計画審議会を始めさせていただきます。事務局を担当しております企画課の水田です。よろしくお願いします。この会議につきましては8月末に前回務めていただいていた委員さんの任期が満了となりまして、9月から新しい委員さんに加わっていただき、新たに2年間の任期でスタートするということで、

今日は第1回目の会議ということになっております。それでは、開会にあたりまして町長よりご挨拶を申し上げます。

(中尾町長)

皆さん改めましてこんにちは。日頃はお世話になっております、四万十町長の中尾でございます。今回は新たな委員さん4人を迎えて会議が開催されるわけですが、本当に皆様ご多用の中ご出席賜りまして、こうして会議が開催できますことをまずもって感謝を申し上げたいと思いますし、日頃は町行政に対しまして格別のご支援を賜っておりますことを心より感謝申し上げます。委員さんは本当にそれぞれの分野で町行政にご支援いただいている方ばかりでございますけれども、総合振興計画というのは、やはり町の最上位計画でございます。本当にこの計画を中心に様々な枝の計画があるわけですが、おかげさまで平成27年から地方創生総合戦略という国の動き方の中で、地方の地方創生創造の事業ということで取り組んでまいりました。結果として、私も9年目でございますけれども、今は地方が変わってきております。今まではやはり都市集中の思考というか、就職も学校もそういった方が多かったのですが、だんだんに都市から逆に地方へのUターンやIターンが多くなってきているということで、現在四万十町にも、地域おこし協力隊という、例えばUターン者も結構ですけども、そうした外部人材を招聘して町職員として活躍していただいている方が約20名おります。その中でこれまで延べ50数人を採用しましたが、その内だいたい55%が定住しておりまして、さまざまな部分で活動をいただいております。でございますけれども、やはり、ここで生まれる子供の数が今現在だいたい年間80人ぐらいです。今の成人式の方が大体130~140人ぐらいおると思いますので、だいたい半分ぐらいの状況になるということで大変危惧しているところでございますが、そういった中で、やはりこの町でしっかり育てる町というのを目指してやっておりますので、ぜひそういった視点で総合振興計画の中でしっかりこの地域を守っていただける方、さらにはそういった人材として育てていただける方をしっかり育てながら、この町の将来をしっかりと担っていただくような状況で今調整しているところでございます。本当にコロナの中で厳しい経済環境にありますけれども、是非この街でしっかり育てていただく方を確保していこうと、子供もしっかり生まれていただいて育てていこうということで思っておりますけれども、ぜひ総合振興計画の策定、そして今後はですね、外部評価ということで、評価についてご審議いただく場面もあると思いますけれども、そういったところも含めて、ぜひより良いご指導もいただきながら、この町の将来に向けて様々なご意見をいただいて、ぜひ活発な審議会にしていいただければと思います。結びになりますけれども、大変お忙しい中をこうして参加いただいて会議が開催できますことにお礼を申し上げますとともに、今後の皆様方のご活躍を心よりご祈念いたしまして、簡単でございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

どうもありがとうございました。それでは続きまして自己紹介をさせていただきます。<省略>

(事務局)

それでは会次第の4番の会長と副会長の選任というところでございまして、総合振興計画審議会条例の方に、会長と副会長を委員の互選で選ぶということになっております。どなたか、立候補また推薦がございましたらお願いします。ございませんでし

ようか。それでは、事務局の方で、事前にご相談をさせて頂いております方々にお願いをすることによって構いませんか。

(一同)
異議なし。

(事務局)
それでは、会長は高知大学の岡村先生にお願いをしております、副会長は区長連絡会長の船村さんをお願いしておりますが、よろしいでしょうか。

(一同)
異議なし。

(事務局)
それでは、会長と副会長にご挨拶いただければと思います。

(岡村会長)
会長を仰せつかりました岡村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。この審議会は以前から出席させていただいておりますけれども、いつも皆様のパワフルな議論を見ていてですね、素晴らしいなあいつも思っています。私は10市町村さんぐらいの、まち・ひと・しごとの会議に出させていただいて、それぞれの自治体さんに特徴があるわけでございますが、1番四万十町さんを拝見して思うのは、役場さんも非常にこう地域の声をお聞きする態度があって、地域の方からも大変積極的に意見があって、それをうまくまとめ上げて総合振興計画が作られているなということをしてすごく実感しています。それは今まで八木会長がずっとやっておられて会長は大変だなと思いがらずずっと横で見ておりました。それが今回から会長ということで、気を引き締めてやって参りたいと思います。船村副会長にもぜひお願いしたいと思います。それから私が計画について最近思うことを少しお話しできればと思います。実際、コロナ禍も開けはじめていて、というのは私、ホームページのデータをいろいろ持っていますね、観光のデータなんかを持っていて、ここ最近の動きを見てみると、春ぐらいからこの8月、9月にかけての動きがコロナ禍前と同じようなアクセス傾向みたいになって来たなと思っております、コロナ禍の時はかなりアクセスの形態がずっとピークだった夏から秋にかけて大体同じようなアクセスだったわけですね。それまではずっと8月がピークでバーンと秋に落ちてくるっていう流れだったわけですけど。今回観光関係のアクセスもそれに近いような動きになってきていて、徐々にそういう動きなのかなというのを感じています。それとウクライナのことはですね、実際我々円安ですとか物価高騰が影響していますけれども、例えば中山間のこれからの通信網を担う衛星通信についても、実はその影響を受けているという話もありまして。なかなかその衛星を今飛ばせないってところですね、かなり我々としては考えていたことと予想していたことと、今起きていることのギャップがだいぶ起きているというのが実態かなと思っています。計画をしっかり作っていくことも非常に重要なことではあるものの、一方で今もう一個大事なのは、現状に合わせて実態に合わせてですね、その計画と今の実態を修正していく力っていうのも非常に重要なことと思っています。ぜひ審議会の中では、計画だけにこだわらず、現状やこれからの今起こっている我々の近い未来を想像して、どう修正して行くべきかといった観点でもご意見いただければいかがかなというふうに思っております。あとは事務局の皆

さんがうまくまとめてくださると思っておりますので、そのような観点でぜひご意見いただければと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

（船村副課長）

区長連絡会の船村と申します。前回に続きまして副会長と言うことで、また引き続き皆さんと一緒に勉強していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（事務局）

どうもありがとうございました。それでは早速ですけれども、5番の説明事項ということで、本日初めてご出席の委員さんもいらっしゃいますので、この総合振興計画の中身や審議会の方でどういったことをしているのかというところの説明をさせていただいて、令和4年度の行政評価を実施しておりますので、そのあたりもついてですね、ご説明をさせていただければと思います。〈説明省略〉

（事務局）

ここまでで何かご質問がありましたらお願いします。

（岡村会長）

よろしいですか。我々のミッションはここだと行政評価の外部評価のことになっているかと思いますが、常に内部評価を行ったものに対して外部からの視点で、もう一回っていう事だと思いますが、その評価というのはいいか悪いかという評価ですか。

（事務局）

そうですね。順調に進んでいるかどうかということも含めてですけれども、もっとこうしたらいいのではないかとか、これはどうなっているのかと単純に聞いてみたいという事もあると思いますし、そういったことを含めてお願いしたいと思います。

（岡村会長）

事業そのものが良いか悪いかという事だけではなくて、当初目標としたものに対してどれくらい進んでいるのかっていう進捗で評価をされていて、皆様にも外部の目線からもう一度最低限ご意見をいただきたいということと、これからその目標に対してもう一回巻き返す、例えば遅れているとなったら挽回するためにはどうすればいいかという意見をいただくなり、あるいは目標自体がひょっとすると、コロナ禍の中でハードルが高かった面もあるのであれば、そういったところについて、もう少し次はこうした方が現実的じゃないかと言う意見もあっていいかなと思いますね。ありがとうございます。その他ご質問などいかがでしょうか。

（岡村会長）

外部評価ですが、前回けっこう大変だった覚えがあるのですけれども、事前に何か資料を頂いて、それを読んだ上で参加して、なおかつプレゼンがあるということによってよろしいでしょうか。

（事務局）

そうですね、事前に資料を送らせていただくように致しますけれども、その資料を見ていただいて会議をやって、またその時に説明させていただくような形で考えてお

ります。

（岡村会長）

さっきお話いただいているかもしれないですけど、何事業ぐらいありますか。

（事務局）

後ほどご説明させて頂くようにしていますので、事務事業は59事業ありまして、施策が5つということになっております。

（岡村会長）

それ全部をやるということですか。

（事務局）

そうです。やり方については、また会長にご相談させていただきたいと思います。

（岡村会長）

約60事業を全部チェックしていくってということですかね。進捗 ABCD があるので、それを目安に皆さんコメントいただくのではないかなと思います。では、次の議題の方に移って参りたいと思います。

（事務局）

そしたら引き続きになりますけれども、資料7で令和4年度の行政評価についてというところをご覧いただきたいと思います。〈説明省略〉

（岡村会長）

説明ありがとうございます。只今の行政評価の方法についてご紹介いただきましたが、何かご質問がありましたがいかがでしょうか。次回の会が11月なので、事前に資料が配られるということになりますので、評価方法ですとか、ご質問やご意見がありましたら今この場でいただいた方がよろしいかなと思います。

（島岡委員）

今回のような会議には参加自体が初めてですので、分からないことだらけでお伺いしたいのですが、この評価というのは個人的な立場で評価ということではよろしいでしょうか。何か根拠が必要とか、そういうことはないでしょうか。

（事務局）

個人的な立場で結構でございます。

（岡村会長）

60事業を全部1つずつチェックするっていう感じですかね。それにもよると思うんですけど。

（事務局）

そうですね、一つ一つチェックするっていうのは、かなり時間かかりますので、基本的には資料を事前に送らせていただいて、この事業について深く聞いてみたいなという事業ですとか、改善の内容についてもう少し深く聞いてみたいなであるとか、も

しくはうまくいってない事業についてこういったことをしてみたらいいのではないですかとか、そういうようなご意見がもしあれば、そういったところをお伺いできたらと考えております。また、担当課が行っている評価がどうなのかというところについても、委員さんのご意見をお聞きして取りまとめをしたいなというふうに考えているところですが、またそのあたりについてはもう少し検討してみたいと思います。

（島岡委員）

ありがとうございます。それと、当日までにすべて評価を終えて参加をしないといけないというわけでもないですか。

（企画課：川上課長）

先ほど事務局が説明しましたとおり、この会で最終的にやっていただきたいというのが、この資料の7の後ろについてある施策評価というところになります。内部でもやっているのですが、これが妥当かどうかというところで、最終的には目標としてはそこに行き着くということです。建付けとしましては、その手前に先ほど言いました59の事業があります。これらの積み上げでこの施策評価シートが出来上がっているのです、事前にこの59の事業の評価シートを送りして目を通していただいて、さらに次回の会でそれぞれ所管課がありますので、そこが去年も行ったように説明をさせていただきます。それは、この事業がこういう事業ですってということはもちろんのこと、内部としてこういう進捗管理をして、こういう評価をしましたという説明をさせていただきます。また、事前に資料をお送りさせていただきますので、目を通していただき、その説明を聞いていただいたうえで、気になることを聞いていただくということです。そして、理解を深めていただいた上で、政策評価シートの中身がどうかというところを判断していただきたいと考えています。事業数が59になりますので、1回でなかなか59は難しいかなというところも思っておりまして、30事業ずつに分けてやったらいいかなというふうには考えておりますが、その辺は会長と相談させていただきたいと思います。ですので、事前にお送りした資料を全部チェック入れて、それが良いか悪いかやってくださいということはありませんので、次回説明を聞いた上で判断していただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

（岡村会長）

ありがとうございます。基本は施策単位での評価にチェックをとということで、その政策を構成するのが60の事業なので、そこもエビデンスとしてみてくださいというところかなと思います。個人的と先程おっしゃられましたけど、私はそれでいいかなと思っていますが、例えば個人的ってどういうことなのってということで言いますと、皆さまそれぞれの出席者のお立場というものがおそらくあろうかと思います。ご所属ですとかそういったところで、日頃その分野に関わっておられるお立場から言っているところとはやっぱりよくあるのかなと思いますし、また、これまでのご経験、そこだけじゃなくて、それまで別の部署にいたりとか、違うことやっていたりすることもあると思いますので、そういった個人的なご経験ですとか、私生活の中での住民という立場でのふれあいっていうところでも、ご意見頂けるところがあるのではないかなと思います。そういった観点で、コメントいただくのはいかがかなと思います。私も専門は非常にこの中でもすごく限られたところなので、なかなか全体についてチェックすることは無理ですし、わからないことにコメントするのもどうかと思いますし、その辺は割り切っているのではないかなと。また、公募委員の方々はやはり生活者の目線という形で、忌憚のないご意見を広くいただければと思いますので、その

辺は全く臆さずに堂々にご評価頂ければいいかなというふうに思います。その他いかがでしょうか。

（山本委員）

この事業名の中に、環境美化の事業がないのですが、最近国道を歩いていましたら、もうゴミのポイ捨てがすごいです。それで、新聞なんか見ても、仁淀川、それから物部川や今朝四万十川も見ましたが、キャンプに来られた人がゴミをそのまま草の中へ投棄しているとか、そういうことがありますので、そういうことも考えてもらいたい。環境美化の事業もこの評価の中にいれてもらいたいなと思います。

（岡村会長）

ありがとうございます。環境美化のお話がありましたけれども、この中で該当するような事業というのは分かりますか。

（事務局）

そうですね。資料の③を見て頂けたらと思いますが、この行政評価について書いている部分の7番となりまして、「広大な自然環境と共生するまち」という施策目標の方ですけど、環境に関連する事業は主にこちらの施策に関連しているわけですが、こちらの事務事業につきましては去年の行政評価の方で、事務事業の評価の方を実施しておりますので、今年度については、違う施策を選択してということになっておりまして、2番と4番の赤字で囲ったところを、今年度実施するということで、今回については環境に関するところが無いのかなというところです。この評価につきましても、毎年度違う分野を選んで実施し、何年かで全ての施策を実施できるような形で考えておりますのでよろしくお願いします。

（岡村会長）

ありがとうございます。今回は環境美化そのものがテーマになっている施策ではないというご説明ではあったのですが、例えば見ていただくと60の事業の中でもですね、例えば人材育成という観点で環境美化、環境への意識をどう高めるかみたいなコメントをしていただけるのではないかなと思いますので、直接的にはございませんが、それぞれの施策や事業を見て頂いてですね、環境の観点で何かご意見いただけるようなことを差し込んでいただくのもよろしいかなというふうに思います。他にございませんでしょうか。事務局の方は何かございますか。

（事務局）

会次第の方で予定をしておりました説明事項につきましては、すべて説明をさせていただきましたので、その他の件で委員さんの方から何かあればというところですが、事務局の方から特にございませんのでよろしくお願いします。

（岡村会長）

ありがとうございます。では全体通しまして、ご意見ご質問ありましたらと思います。いかがでしょうか。

（竹吉委員）

せっかくの機会ですので、直接関係はないかもしれませんが、山本委員さんの方から観光客による投棄等の事例も交えて、環境についてお話がございました。今日は

正地域振興局の局長さんもいらっしゃいますけれど、自分は打井川に在住しておりますので、海洋堂ホビー館ができて、ひょっとしたらそのごみの投棄とか、そんなものが増えるかなというふうに思うこともありましたが、できて以降も周辺でも生活しておりますけれども、特にゴミが増えたという感覚がほとんどありません。そういった投棄についても意識をされるのかなと思いますし、逆にそのホビー館関係の方々が清掃をずっとされているのかなというところについても、局長さんのご認識があれば一回聞いてみたいと思いましたし、なお、この環境関係についてもそういった観光客だけに限らず、やっぱりゴミ拾いの清掃の日に、ホビー館から多くの方がゴミ拾いをされているところを見えますとですね、日常の清掃の取り組みということが見受けられるかなという事がございましたので、環境の維持についてはですね、そういった視点が大事かなと思いましたので、発言させていただきました。

（大正地域振興局：北村局長）

竹吉委員さんから言われたことは、ホビー館や打井川近辺のことだけではないかもしれませんが、ゴミ拾いについて特に町としてや、それから海洋堂ホビー館が具体的に何か取り組みをしているというようなことは聞いてないのですが、多分竹吉委員が言われたように住民の意識の問題で、ゴミも一定落ちているところもあるかもしれませんが、皆さん気をつけて、それこそ先日ホビー館の50万人達成のイベントをさせていただいたのですが、町も協力させていただいたところですけど、それでやっぱり意識の問題で、観光客を迎え入れる中で地域の方も一定そういう取り組みをそれぞれがされている。また、町としても例えばですけど、大正地域振興局であれば月に一回、街中のゴミ拾いとか、清掃活動を行っていますので、そういうことで皆さんもそうした意識を持って取り組んでいただいているのかなと思います。

（岡村会長）

ありがとうございます。キャンプ場のゴミの話もありましたですかね。

（山本委員）

四万十川にキャンプ来てくれるのは嬉しいけど、ゴミを捨てていく方もいると聞きます。私もウォーキングしてまして、自分ができるときはゴミを拾っていますけど、それでも拾っても拾ってもまた同じことですね。1週間もしたらまたゴミが落ちています。お菓子の袋とかペットボトルとか。もう本当にいちごっこみたいな感じですね。国道沿いなんかもこれはもうなんとか子供に言うとか、大人の意識も変わらないといけないと思います。

（岡村会長）

ありがとうございます。キャンプをしている身として、キャンプ場いくつか行くのですが、汚いキャンプ場ときれいなキャンプ場は決まっています。それはキャンプ場に訪れるお客さんが同じだけではないと思います。ユーザーの感覚として、やっぱりキャンプ場の管理をどうしているかっていうのも多少あるのではないかなと思ってまして、キャンプをしている側からすると、やっぱりきれいなキャンプ場さんはゴミも捨てやすいし、ちゃんとしなきゃいけないなっていうような、利用者がそういう気持ちになれる環境が実はあったりとかするので、そういった手助けと言いますか、そういったことも一つあるのかなというのは個人的に思いました。まあ、それはキャンプ場を提供する場合の環境教育なのかもしれないですけど。また、今の北村局長さんの話を聞きながら、やっぱり利用者側に求めるだけじゃなくて、管理する側と利用者

側とその関係の中で美化っていうのをどういうふうに作り上げていくか、その環境づくりかなという気はしました。

（山本委員）

テレビで見ましたが、東京の原宿でゴミ箱ありますよね。そのゴミ箱の外へもいっぱいゴミを置いてあるような状況で、それで東京都の方が考えて、ゴミ箱がいっぱいになったらランプがついて、圧縮してゴミが入れられるようになるのをやっています。そうしたことも考える必要があるかもしれません。

（岡村会長）

ありがとうございます。ぜひそういった観点からもまたご意見いただければと思いますし、おそらく人材育成のところじゃないかなと個人的に思いますけど。

（田中委員）

僕も今回初めて委員になったので、よく分からないのですが、行政評価についてですが、この目標はいくつかある中の、今年度はこの2つに絞っていこうということで評価をしているってことは分かりましたが、この中のほかの施策の中で、今取り組んでいて変えていかないかんとということが出てきた場合とかのチェックとか、そんなことはあったりするんでしょうか。

（事務局）

他の施策の進捗状況というか、こういうふうに変えていきますというところにつきましては、毎年施策ヒアリングというものを夏場に行っておりまして、今年の場合でしたらこれまでの事業のやり方を変えていく事業については、協議の場にあげてくださいということをお願いをしまして、そういう変化のある事業については行政評価とは別でヒアリングをして検討をしています。行政評価とは別の分野については、そういったところで確認をしているという状況でございます。

（岡村会長）

ちなみに、2月27日のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中間評価っていうのは、行政評価を総括したものがこれに値するという理解でよろしいでしょうか。

（事務局）

すみません、それはですね行政評価とは別のものになるのですけれど、その時にまち・ひと・しごとの評価と今回説明している行政評価を一緒に行う可能性もあると思っています。そのあたりも変わる可能性があるかなと思っています。

（岡村会長）

ありがとうございます。もしかすると田中委員がおっしゃられたかった他の施策に関しての意見をもし我々が言いたかった場合は、2月のところで広く意見を拾って頂ける可能性があると思っていますかね。

（野村委員）

（7）の21に奨学金貸付事業というのがあるんですけども。この奨学金が、社会人になってからの返済がすごく負担になる事例とかがよく紹介されているのですけれども、これは今回ということじゃなくて、将来的に奨学金の貸付だけでなくて給付

ということも項目として増やす方法はありますか。ぜひそういうのがあれば増やしてほしいですけど。

（岡村会長）

ありがとうございます。是非、次回の評価のところでも同じコメントいただければというふうに思うのですけれども、実際、今枠の中にあるかないかって話で。

（企画課：川上課長）

少しお答えしますけども、次のページの52番に四万十町奨学金等返済支援事業補助金というものがあります。人材育成推進センターの所管で私が所長をやっておりますけれども、そちらの方で令和3年度から始めた事業です。それが、今おっしゃられたとおり、奨学金の返済に対する支援を補助金として出しているということです。ただし、これが移住をしてきた方、つまり去年の4月1日以降に四万十町に住所を移した方が対象になっています。ずっと住んでいる方に対しては今のところそこはやってないというふうになっています。また、この辺の詳しいところにつきましては、次回以降にもう少し詳しく内容についてお示しできるかと思いますし、事前にお送りする資料の中へもそれを書いていますので、委員がおっしゃられたようなことがないわけではないというふうにご理解いただけたらと思います。

（岡村会長）

ありがとうございます。よろしいでしょうか。では大体意見は出尽くしたようなので、最後に船村副会長に閉会のご挨拶をいただければと思います。

（船村副会長）

皆さん長時間お疲れさまでございました。新しく委員になられた方もいろいろと分からないところがあるかと思いますが、私もまだ以前から委員をやっておりますけれども、勉強不足ではっきり言ってどこがどうなっているのかというようなところもでございます。これから皆さんと一緒にいろんなことを質問し、勉強して少しでも町のお役に立てるような会にして行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。どうも本日はありがとうございました。

— 閉 会 —